

探究活動マザールーブリック (令和7年度版)

育成する資質・能力		4 (重視するポイントが満たされており、特に評価できる状態)	3 (重視するポイントが概ね満たされている状態)	2 (重視するポイントは意識されているものの、改善点が多い状態)	1 (重視するポイントがあまり意識されていない状態)	0 (重視するポイントが全く意識されていない状態)	備考 (評価のために)
具体的な観点	重視するポイント						
項目1 高度科学・技術社会にて課題を発見する力	・先行研究(これまでの知見)に基づく問題提起 ・高校生にとって現実的な課題と仮説の設定	これまでの知見や試行錯誤に基づき、明らかにすべき課題を十分に焦点化して設定することができ、特に評価できる。	これまでの知見や試行錯誤に基づき、明らかにすべき課題を十分に焦点化して設定することができる。	これまでの知見や試行錯誤に基づき、明らかにすべき課題を焦点化しようと努めているが、課題には不明瞭な点が見られる。	これまでの知見や試行錯誤に基づき、明らかにすべき課題を焦点化することができず、課題は抽象的なものである。	これまでの知見や試行錯誤に基づき、明らかにすべき課題を設定しようとしていない。	
項目2 論理的思考をもって問題を解決する力	・データなどの根拠の提示 ・論理の構築	根拠を提示して、探究の課題を解決・検証するための論理的な枠組みを構築することができる。特に評価できる。	根拠を提示して、探究の課題を解決・検証するための論理的な枠組みを構築することができる。	根拠を提示して、探究の課題を解決・検証するための枠組みを構築することができるが、恣意的な面も見られる。	根拠を提示して、探究の課題を解決・検証するための枠組みを構築しようとしているが、恣意的な面も多く見られる。	根拠を提示して、探究の課題を解決・検証するための枠組みが恣意的であり、論理的な枠組みを構築することができない。	
項目3 自らの主張や考えを分かりやすく魅せるコミュニケーション能力	・自らの主張や考えを理解してもらうための表現・発信 ・自らの主張や考えを理解してもらうための対話・質疑応答	発表に必要な要素を取捨選択し、聞き手を意識した発表ができる。また、質疑応答を通して、聞き手との双方向のコミュニケーションができています。	発表に必要な要素を取捨選択し、聞き手を意識した発表ができる。また、質疑応答では概ね適切に対応することができる。	発表に必要な要素を取捨選択し、聞き手を意識した発表ができる。ただし、質疑応答の対応には課題がある。	発表はしているものの、聞き手を意識できていない。また、聞き手の質問への応答が明確に回答できない。	聞き手を意識した発表や、対話・質疑応答をしようとしていない。	
項目4 問題解決に向けて粘り強く試行錯誤する姿勢	・粘り強く取り組む姿勢 ・自己調整しながら取り組む姿勢	自分の設定した課題の解決に向けて、粘り強く取り組むことができ、特に評価できる。	自分の設定した課題の解決に向けて、粘り強く取り組むことができる。	自分で解決すべき課題を設定することができるが、粘り強く取り組んだとは言いがたい。	粘り強く取り組んだように見えるが、自分で解決すべき課題を設定することができない。	自分で解決すべき課題を設定することも、粘り強く取り組むこともできない。	
項目5 問題解決に向けて多様な他者と協働できる力	・多様な他者との協働 ・校外の者との価値の創造	多様な他者と協働しており、さらに校外の者と新たな価値を創造することができる。	多様な他者と協働しており、さらに新たな価値を創造できるように取り組んだ。	自分役割を見つけ、多様な他者と協働することができる。	自分役割を見つられず、多様な他者と協働することが難しい。	自分役割を見つようとしていない、多様な他者と協働しようとしていない。	多様な他者とは、友人、教員、地域の人、外部の協力者など、共に問題を解決する自分以外の者を指す。
項目6 生徒エージェンシー(生徒の主体性)	・自分ごとである学び ・生徒が主体となる学び	生徒が学びを自分ごととして捉えられており、生徒が主体となって学びを進めることができる。	生徒が学びを自分ごととして捉えられており、生徒も主体的に意見を示しながら学びを進めることができる。	生徒が学びを自分ごととして捉えつつあり、教員が主導しているが、生徒も積極的に学びを進めている。	生徒が学びを自分ごとと捉えるには至らず、教員からの指示に従って学びを進めた。	生徒が学びを自分ごとと捉えるには至らず、教員からの指示がなければ、動くことができない。	全ての授業で4を目指せるわけではない。項目4(自己調整)とも関連するが、学びの主体が生徒であることが望ましい。